

ほんかんだい

しつ

うちゅう

か ち

本館第5室：こころの宇宙——価値

えんぜつしや いす

 イアトムル人の演説者の椅子

パプアニューギニアのセピック川^{ちゅうりゅういき}中流域に住むイアトムルの人々は、
 迫力^{はくりよく}に満ちた神像^{しんぞう}や仮面の作り手として知られています。彼らの村の中央には
 精霊^{せいれい}小屋が建ち、その内部には精霊^{せいれい}や祖霊^{それい}をかたどった彫刻^{ちようこく}や仮面などが
 置かれています。精霊小屋はイアトムルの人々を守護^{しゅご}する精霊^{せいれい}や祖霊^{それい}が集う場
 所であるとされ、さまざまな儀礼^{ぎれい}が執^とり行われる神聖^{しんせい}な場所です。



この「演説者の椅子」（イアトムル語で“テケ”）と
 呼ばれる椅子も精霊小屋の中に置かれます。椅子の
 側面^{そくめん}には大きな顔をもつ立像^{りつぞう}がとりつけられていま
 すが、これはイアトムルの人々が生きる大地を生み出
 した創造主^{そうぞうしゅ}ワグンをかたどったものとされています。
 この椅子と立像は別々に作ってつけられたものでは
 なく、はじめから一本の太い丸太をくりぬいて作られ
 ています。

座ることのない椅子

この椅子は「けっして座ることのない」椅子です。
 精霊小屋に集う男たちは、腰^{こし}かけたり寝そべったり
 するための台を使います。ふだん男たちは「演説者の
 椅子」に腰^{こし}かけることはもちろん、触^{さわ}ったりすること
 も厳しく禁^{きん}じられています。村の中での政治的な取り決めやもめごとの解決^{かいけつ}
 など、イアトムル社会にとって何か大切な問題が起きると、男たちは精霊小屋に
 集まって議論^{ぎろん}をします。演説をする男は、ある特別な葉^{たば}（ユリ科植物）の束を
 手に持ってこれをときおり椅子にたたきつけながら、大きな声で自分の意見を
 まくしたてます。男たちは椅子に葉をたたきつけることによって、偉大^{いだい}なる
 創造主の力を自^{みずか}らのうちに呼び込み、その力を言葉に込めて発^{はつ}している
 のです。

ほんかんだい

しつ

うちゅう

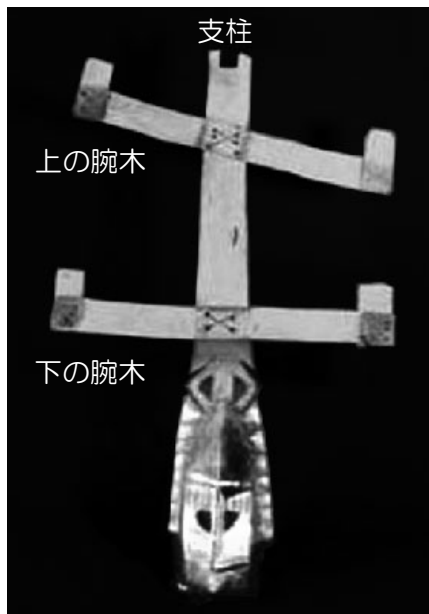
かち

本館第5室：こころの宇宙——価値

ドゴン人のカナガ仮面^{かめん}

これは、ドゴン人のカナガと呼ばれる仮面です。仮面の顔部分の上に、“キ”形^{かぎ}の飾りが乗るといふ独特の形をしています。飾りの中央^{どくどく}の支柱^{しちゅう}は世界の軸^{しき}を、上の腕木^{うでぎ}は天を、下の腕木は大地を表すとされます。

ドゴン人は、西アフリカ、マリ共和国の中央部に住む農耕民^{のうこうみん}です。ドゴンの神話は天地創造^{てんち そうぞう}の神話をはじめとして、壮大な宇宙観^{しんわ}、世界観を持っています。ドゴン人は、特徴ある凶形^{とくちよう}を規則的に用いた仮面を作る人々として有名^{きそくてき}です。仮面の踊りは、彼らの神話の世界^{あざ}を鮮やかに表現します。



死の世界と仮面

ドゴンの神話では、人間の過^{あやま}ちによって世界に死^しが出現^{しゆつげん}し、その混乱^{こんらん}を鎮めるために死者をかたどった仮面が作られるようになったと語られます。その後、狩人^{かりゆうど}が獣^{けもの}を殺すたびに、あるいは何か重大な事件が起きるたびに仮面が作られるようになりました。仮面のモチーフはシカ、サル、ウサギといった野生動物から人間、そして首長^{しゅうちよう}の家までさまざまです。仮面は死と、死^かに関わる儀礼^{ぎれい}に結びついています。死者をほうむる儀礼に仮面が登場し、仮面の力によって死者は生者の世界と切り離^{はな}されます。

死者を精霊^{せいれい}の世界へ送り出す喪明^{もあ}けの儀礼では、仮面をかぶった男たちが太鼓^{たいこ}の伴奏^{ばんそう}に合わせて踊ります。仮面にはそれぞれ決まった踊りがあり、神話に沿ったストーリーが演じられます。カナガ仮面は儀礼の最後に登場します。踊り手は仮面の飾りの先を大地に打ち当て^{はげ}激しく踊ります。この動きは鳥を表すとも、創造神^{そうぞうしん}が世界を創造する様子を表すとも言われます。